

## 2024年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2024年度の自己評価	
JPクラス・EPクラスにおける日本語と英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。</li> <li>● 教育部長を中心に BLES コーディネーターと教務主任と各教科担当教員が連携・調整を図ることで、英語と日本語の二言語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。</li> </ul>	4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。</li> </ul>	4
		授業は円滑に運営できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1・2年生は学級担任制、3～5年生は教科担任制で学習指導を実施している。</li> <li>● 日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。</li> <li>● 第1言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。</li> </ul>	4 4 4
			児童・生徒への教育上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。</li> <li>● 編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、JPクラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。</li> </ul>
	情報提供の状況	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。</li> </ul>	4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。</li> </ul>	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。</li> <li>● 保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。</li> </ul>	4 3
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。</li> </ul>	3
	その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語力の向上がみられる。</li> <li>● 国語や算数などの基礎学力も定着している。</li> </ul>	4 3
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6年生からのMYPへの接続に向けて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。</li> <li>● 外国籍教員の研修の充実</li> </ul>	3 4

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2024年度の自己評価	
IBクラス・MYPにおける英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。</li> <li>● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。</li> <li>● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。</li> </ul>	4 4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務主任（Director for Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。</li> </ul>	4
		学習指導要領の内容は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。</li> </ul>	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入学後の学習を見据えた入学試験を実施し、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。</li> </ul>	4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語力および日本語力が不足する生徒に対しては、早朝の集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に言語力が身につくよう配慮している。</li> <li>● 模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。</li> </ul>	3 4
			国際標準教育が提供できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務主任（IB担当）により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒がIBプログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。</li> </ul>
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年度毎のテーマに沿った説明会・講演会（IBフォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。</li> </ul>	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IBでの学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。</li> </ul>	4
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。</li> </ul>	4

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2024年度の自己評価	
IBクラス・DPにおける新科目の設置	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。</li> <li>● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。</li> <li>● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。</li> </ul>	4 4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務主任（Director for Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。</li> </ul>	4
		学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。</li> </ul>	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更の際に、配慮出来ているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IBクラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。</li> </ul>	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。</li> </ul>	4
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。</li> </ul>	4
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の高等学校の学習環境のもと、IBDPの学習内容をリンクさせて学習することが出来る。</li> </ul>	4
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。</li> </ul>	4

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

## 令和6年度学校関係者評価結果

### K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2024年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

#### ◆K-12 教育活動について

##### <Primary Division>

- 先を見据えた活動の1つとして、各学年の1つ先のディビジョンの授業を子供や親に定期的に参観させ、次の進学に向けた学習の準備や心の準備をする機会を設けて頂けると、先の目標設定がしやすいのではと思います。
- 所属ディビジョンはもちろん、他ディビジョンについても詳しく知る良い機会となりました。コロナ禍を経て、内容が縮小されていたものが元の活動に戻ってきていることは、先生方や学園の努力の賜物だと思っております。コロナ前の良いところ、コロナ後に変わった良いところ、それぞれの良いところを取り入れたハイブリッドな取り組みは今の時代に合っていて良いと思います。幼稚部から大学までがあるワンキャンパスの強みを生かした活動に関しても、児童の活動だけではなく、先生方の研修会なども活発に行われ、それが授業や活動、行事に生かされていると感じます。
- 教員の「質」について改めて提言させていただきます。Primary Divisionの5年間を通して、教員の児童に対する向き合い方に疑問を感じることもありました。児童・保護者に挨拶できない、児童の考えを否定する、などといった出来事を見聞きしており、それらが児童たちの教員に対する信頼感の低さにつながっている印象を受けております。外国籍教員が増える中、子供たちの見本となるべき教育者としてのあるべき姿を見直し、児童との信頼関係の構築を図ることが最優先だと感じています。
- 95周年の発表は非常に印象的で、会場全体が一体となって歌を楽しんでいた様子が、玉川ならではのなと感じました。子供たちの歌声に感動しました。

##### <Secondary Division>

- 地域連携、企業とのコラボレーションなど、常に新しいこと、そしてたくさんを試みてくださり、子どもたちが大いなる刺激を受けていると感じました。そしてコロナ以降の著しい出生率低下については危機感を感じました。玉川学園—全人教育—IB 以外に何か特化する特長を持つことを期待しております。
- それぞれの課題に対してしっかりと実践していただいていることが分かりました。
- 全人教育、STEAM教育を基盤に、各年齢での玉川らしい教育が実践され、結果として、入学者数の増加に繋がっていて、素晴らしいと思います。学校全体で同じビジョンを共有し、一体感が感じられました。
- 外国籍の先生方の玉川学園の教育への理解度について少し不安があったが、研修会等で補われているという事に安心した。

##### <IB Division>

- 教職員の研鑽にも尽力されていることに、学園に対する信頼感と心強さを感じました。
- 課題の改善対策をお願いします。

### <Division 共通>

- 各ディビジョンに於いて、具体的な目標が定められておりその目標に向かってしっかり取り組まれていることがよく伝わってきました。初めて参加させていただきましたが、「自己評価する」ということはなかなか難しいのだろうな、とも思いました。
- 各ディビジョンともに様々な取組みをされていて、父母会総会で父母から御意見もありましたが、教育上の数字スコアだけを追っているわけではなく、多様な視点を持った子供・生徒になるように指導して頂いているな、と感じます。一方で、世間的なポジショニングやイメージという意味では、他の学校と比べての学力などが定量的にどの程度なのか？について、試験スコアや英語スキルなどの定量評価の開示が有っても良いかなと、感じました。
- Tamagawa Vision 100 をもとにした各ディビジョンの目標設定とそれに対する活動がきちんとなされていると感じました。コロナも落ち着き、子供たちのための活動が多くなってきたことを嬉しく思います。
- 各ディビジョンの掲げる「課題・重点施策」が曖昧であるため、「達成状況」に具体性がなく、評価基準も明確に定義されておらず、学園側がどのような根拠を以て「達成できた」と評価しているのかわかりませんでした。定量的に評価できない課題ほど、「課題」と「達成基準」を明確にする必要がありますが、全体を俯瞰してこれら二点が明確になっていない印象を受けました。Primary Division を例に挙げると、達成状況に「全教員が重点目標を作成して教育活動の充実を図った」とありますが、各教員がそれぞれ具体的にどのような目標を立てて、その目標に対してどういう Action を起こし、その結果どんな効果が得られたのか、が記されておらず、保護者目線では学園側の評価の根拠と妥当性を判断できません。「課題・重点施策」については、壮大な目標を掲げることが是ではなく、第三者目線で「学園側の評価の根拠と妥当性」を判断できる粒度まで個々をブレイクダウンする必要性を感じました。
- 今回、学園教学部長・各ディビジョン部長方々よりこのようにお話を伺う機会をいただきありがとうございました。所属ディビジョンの部長より話しを聞く機会はありますが、所属以外のディビジョンの部長からお話を聞ける機会はなかなかないので、とても勉強になりました。正直、今回機会をいただかなかっただら、このように素晴らしい評価結果を知らずに過ごしていたかと思えます。もっと他の保護者にもこの評価を広く知っていただきたいなと個人的には思いました。
- 各ディビジョン内及びディビジョン同士の連携が取れていると感じられ、内容についても素晴らしいものだと思います。
- 各ディビジョンの連携について、遠足やマスゲームを通じて、幼稚部と小学部の連携を深める素晴らしい機会だと感じています。この活動を通じて、幼稚部の子どもたちは自然に小学生への憧れを抱き、また、事前に小学部の雰囲気を経験することで、小学部での学びに対する期待や楽しみを持つことができると思います。一方で、中学部と小学部の連携の機会ももう少し増えることを期待しています。
- いずれのディビジョンでも、すべての項目において、適切に進められていることがよくわかりました。学園内の異なるディビジョン間での交流を通して学びを得られることは、まさに学園の強みだと感じます。

### ◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】（回答：19名）

適切である：63.1% 概ね適切である：26.3% やや不適切である：5.3% 不適切である：5.3%

### <JP・EP クラス>

- EP クラスの算数は、英語、日本語とそれぞれ宿題が出されるため、どのくらい理解できているのか、またできない部分は英語なのか、算数なのか、見分けることができるので、非常に良いと感じた。同学年のご家庭に交換留学生在がホームステイしていた。K-12 だからこそ受け入れられる、貴重な機会だと思いました。
- EP クラスについて、スピーキングをもう少し強化して頂けましたら大変嬉しく思います。
- EP クラス 担任の先生が2名いらっしゃるため、質問がしやすい環境。正しい日本語も身に付けて欲しいので、ありがたいです。
- 学習面において、個々の学習習熟度の差が激しいように感じます。個別の理解度を担任の先生がきちんと把握し、細かいサポート（補習、分からない所のプリント配布など）をして、学校の学

習時間内にきちんと生徒が理解する仕組みを作って頂きたいと思っております。

- 十分達成が多く、子供達が学園生活を楽しんで過ごせているのは改めて先生方のお力のおかげだと感じました。
- 英語の教室が近くにあるため、昼休みにはよく遊びに行き、自然と英語で会話をする機会があります。こうした環境が、英語力を伸ばす助けになっており、子どもは楽しみながら英語に親しむことができています。
- きめ細かな指導をして頂いていると実感しています。外国籍教員と日本人教員が指導の共通認識を待ちながら指導にあたっていることが大きいのかなと思います。どのディビジョンでも、ミーティングを密に行い、研修会なども積極的に行われており、それが授業、生徒へ還元されていると感じます。
- 先生と生徒、保護者の距離が近く、学校と家庭で生徒をサポートしている雰囲気が伝わってきました。
- 新科目の設置に係ることかもしれませんが、伝統的な科目＋英語教育に加えて、昨今スピード感が更に増しているデジタルや環境に関する（特にデジタル・システム）科目強化などは学校の独自性につながるのではないかと感じています。
- **Primary Division** では **JP** クラスが **EP** クラスのメリットを間接的に受けている印象を受けましたが、学年が上がるに連れて、双方の交流も少なくなり、別学校と感ずることもあり、双方がもっと交流できる機会があると良いと思いました。
- 学園側の具体的な **Action** とその評価に至った「根拠」が一定示されており、第三者目線でもその評価内容は理解できるレベルで記載されている印象を受けました。一方で、学園側が生徒や保護者向けに **Action** した内容（定期的に **xx** を実施した、**xx** の説明会を実施した、**xx** を配信した、など）について、あたかも全学年に展開されたように読み取れますが、実際には学年が限定されているものが多かったことから、対象範囲を限定している旨記載されるべきであり、今後はその範囲を広げていくことで、各学年によってばらつきのない（平等な）サポートを期待します。

#### <IB-MYP>

- 9年生のうちから進路選択についてのサポートがあるのは素晴らしいと思いました。
- 生徒個人のレベル分けについて丁寧な対応をお願いしたいと思います。
- **IB** クラスの授業について行かれていないという話を耳にします。一般クラスと時間帯がずれているため同じ学校にいるのにコミュニケーションを取る機会が少なく友人にもなりづらいと感じる面もあります。**IB** クラスで部活動に所属している生徒は時間的に余裕があまりないように感じます。また、ルールや教員の指導についてはディビジョン間で連携して認識を統一して欲しいと思っています。
- 英語力・日本語力の不足部分のサポートを引き続きお願いします。

#### <IB-DP>

- 課題に対してしっかりと実施していただいていると思います。学内、学外への発信を今まで以上に進めていただきたいと思います。
- 自己評価・活動は妥当であると思います。

## 令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園小学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園小学部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html</a>

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園小学部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html</a>	左に同じ

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

## &lt;特記事項&gt;

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表し

た。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、小学校段階におけるグローバル人材育成のため、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果について確認できている。また、バイリンガルクラス（EPクラス）に留まらず、一般クラス（JPクラス）も含め、成果をふまえた教育課程や教育活動、評価方法の見直しなど、相互間で連携しながら進めていることが確認できている。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・日本語と英語で学習する教科の継続したカリキュラム開発、副教材の活用。
- ・戦略的な募集、採用活動による指導教員の確保。
- ・外国籍教員を含む教員の指導力向上のための研修の充実。
- ・カリキュラムの柔軟な運用と、より効果を上げるための日課の見直し。

## 令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園中学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園中学部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html</a>

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園中学部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html</a>	左に同じ

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

## &lt;特記事項&gt;

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・小学校のバイリンガルクラス（EP クラス）からの内部進学生と、外部入学者との英語力のレベル差に対する配慮（入試設定や入学後のサポート体制の充実など）。
- ・外国籍教員、外国人留学生や外国籍の生徒などを含む多様性を意識した教育環境の整備、支援スタッフの配置。
- ・正課外での異学年交流や、父母会活動をからめた教育活動の展開。
- ・将来を見据えた教室の学びだけではなく、実践的な国際教育の場の提供。

## 令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園高等部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園高等部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html</a>

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園高等部	<a href="https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html">https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html</a>	左に同じ

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
 一部、計画通り実施できていない  
 ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している  
 実施していない

## &lt;特記事項&gt;

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・現在特例校として認められている以外の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について、高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求めていくことを検討。
- ・自校教育など、外国籍教員を含めた教員研修を充実させる検討。
- ・専属のカレッジカウンセラーを配置し、より一層充実した進路指導を実現。
- ・生徒の正課と正課外活動のバランスを考慮した、持続可能なカリキュラムと日課の設定。